『FINEおおさか』で振り返る ファイン財団20年のあゆみ

1989（平成元）年12月、大阪府は明るく活力ある長寿社会の実現をめざして、「公民の福祉の総合基地」として「財団法人大阪府地域福祉推進財団」を設立しました。

今年は、設立から20年の節目の年となります。また、財団設立一周年を機に創刊された情報誌『FINEおおさか』も70号を数えました。

そこで、今号では〈『FINEおおさか』で振り返る20年のあゆみ〉と題して、誌面で発信してきた情報を振り返りながら、ファイン財団の20年間の取り組みをご紹介します。

財団法人 大阪府地域福祉推進財団の設立

20世紀が残り12年となった1989（平成元）年、来るべき21世紀には、65歳以上の人口が2割を超える超高齢社会の到来が予測されていました。

特に、大阪では高齢化が急速に進み、21世紀を迎えるまでに超高齢社会に対する準備をきちんと行う必要があるとの考えのもと、さまざまな取り組みが進められてきました。

すべての人が健康で生きがいをもって明るく暮らせる社会をつくるためには、豊かな知識と経験を持った高齢者はもとより、全世代を対象とした積極的な事業を展開しなければならない。援護を要する高齢者や障がい者をはじめ誰もが住みなれた家庭や地域で、社会の一員として持てる能力を活かして社会に参加し、安心して生活できる在宅福祉サービスの推進が必要である――。

こうした課題に対して適切かつすみやかに対応するとともに、人々のニーズの増大や多様化に対応するため、サービスの選択肢の幅を拡大し、質の向上を図るための「公民の福祉の総合基地」として設立されたのが、財団法人大阪府地域福祉推進財団です。

公民一体の新しい組織として、生きがいづくり、在宅福祉の推進、シルバーサービスの健全育成を総合的に進め、府民の誰もが健康で生きがいをもって明るく暮らせる福祉社会づくりをめざす取り組みがスタートしました。

事業の三本柱

財団法人大阪府地域福祉推進財団は、「明るく活力ある福祉社会づくりの推進」「在宅福祉サービスの推進」「シルバーサービスの振興」を事業の三本の柱といたしました。

明るく活力ある福祉社会づくりの推進

高齢者の生きがいづくりと、障がい者の社会参加と交流、そして未来を担う子どもたちのための環境づくりを目指し、すべての府民が、地域で安心して活き活きと生活できる、そんな明るく活力ある福祉社会づくりを進めます。

在宅福祉サービスの推進

高齢者や障がい者が、地域で「安心して」生活を送るためには在宅福祉の充実が重要です。これからの在宅福祉を担う人材の育成や福祉用具の普及など、在宅福祉サービスの推進に努めます。

シルバーサービスの振興

介護から健康・生きがい・住まいにいたるまで、シルバーサービスが対象とする分野は幅広く、多種多様です。府民のみなさまのニーズに応える、より質の高いシルバーサービスの提供を目指して、さまざまな活動に取り組みます。